

科 目	週 時 数
現代文B	2 時間

目 標	近代以降のさまざまな文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。	
育 っ た い 力	知識 技能	語句の意味、用法を的確に表現し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てることができる。
	思考 判断 表現	構成、展開、要旨などを的確に捉え、その論理性を評価するとともに、書き手の意図や人物、情景、心情の描写などを的確に捉え、表現を味わうことができる。また、目的や課題に応じて収集した情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現することができる。
	主体性 協働性 多様性	さまざまな文章に触れることを通して多様な考え方を理解するとともに、自分の考えを深めたり発展させたりすることができる。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・「世界をつくり替えるために」 ・「山月記」 ・「相手依存の自己規定」 	<ul style="list-style-type: none"> ・評論を読んで、筆者の着眼点や論旨の展開の特色を理解する。 ・長編小説に描かれた場面、作中人物の心理などを的確に読み取る。 ・韻文の表現の特色を理解して味わう。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・「竹」 ・「永訣の朝」 ・「牡丹花は一短歌抄」 ・「おじいさんのランプ」「書物の近代」「読み書きする身体」 ・「こころ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・韻文を読んで、それぞれの表現の特色を理解し味わう。 ・長編小説における作中人物の性格や心理を読み取り、人間の内面の奥深さを味わう。 ・評論を読んで、論じられた問題への関心を持ち、文化や社会について理解を深める。

授業の形態	一斉授業、グループワーク等
教科書	『精選現代文B』(東京書籍)
副教材	現代語練習帳ことのは(いいずな書店)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による評価
備考	小論文を課す

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	的確な授業理解のもと、学習の手引の内容を自らのことばで明快に他者に説明することができる
	60%	授業内容を的確に理解することができ、学習の手引の問いを解ける

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
古典B	3 時間

目標	古文と漢文を読む能力を養うとともに、物の見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。	
	知識技能	単語・文法などの知識の充実を目指し、古文・漢文を読む能力を身につける。
	思考判断表現	古典の学習を通じて、物の見方、感じ方、考え方を深める。
	主体性協働性多様性	言語文化に対する関心を深め、豊かな自己形成を図る。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・「小野篁, 広才のこと」 ・「姨捨」 ・「先従隗始」 ・「不死之薬」 ・「すさまじきもの」 ・「文ことばなめき人こそ」 ・「漱石枕流」 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の内容を叙述に即して的確に読み取ることができる。 ・文章を読んで、構成を確かめたり表現の特色を捉えたりすることができる。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・「家居のつきづきしく」 ・「鴻門の会」 ・「四面楚歌」 ・「光源氏の誕生」 ・「王朝秀歌」 ・「儒家と道家」 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうことができる。 ・様々な文章を読んで、物の見方、感じ方、考え方を広げ深めることができる。

授業の形態	一斉授業, グループワーク等
教科書	『精選古典B 古文編』(東京書籍) 『精選古典B 漢文編』(東京書籍)
副教材	精選古典B学習課題ノート 古文編(東京書籍) 精選古典B学習課題ノート 漢文編(東京書籍) これからの古典文法(尚文出版) 古典文法練習ノート(尚文出版) 漢文学習必携(京都書房)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト, 提出物, 授業態度等)による評価
備考	調べ学習を取り入れる

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を十分に理解した上で、問題を完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って、全テストの得点率80%を目指す
	③提出物	期限を守って、指示された内容の成果物を提出する
	④準備	学習に必要な物を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間と共に授業を作る意識を持って授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	副教材に用いられた文や語句に付随する内容への理解, 副教材内容の論理的理解
	60%	文法事項や句法等の習得, 副教材内容の概観

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
現代文研究(設定)	2 時間

目 標	問いに対する自分の意見を明確にし、根拠に基づいて論理的に述べるができる。	
育 っ て たい 力	知識 技能	さまざまなテーマについて考えることで、社会で何が起きているかを知る。 文章表現を学び、自分の意見をわかりやすく正確に伝えるための書き方を身につける。
	思考 判断 表現	「なぜ自分はそう考えるのか」について論理的に捉え的確に表現するとともに、実社会の視点から「どうすればよいのか」に関する新たな考えを創造する力を高める。
	主体性 協働性 多様性	他の人の意見に触れることを通して多様な考え方を理解するとともに、自分の価値観に気づくことができる。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 読み書きの基本スキル 事実系文章の読み書き 	<ul style="list-style-type: none"> 日本語の文章で対話的に思考するための基本スキルを習得する。 事実について書かれた文章の読み書きについて学ぶ。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 論証系文章の読み書き 総合的演習問題 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の意見と、それを構築する論証過程を正しく理解し、また自らの主張を論理的に表現する力を身につける。

授業の形態	一斉授業, グループワーク等
主たる教材	「論理力ワークノート」(第一学習社)
副教材	自作プリント
評価の方法	定期試験と平常点(提出物, 授業態度等)による評価
備考	調べ学習を取り入れる

到達 目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	ワークノートに則って具体性・説得力・構成力に加え、独創性のある文章を書くことができる
	60%	ワークノートに則って具体性・説得力・構成力のある文章を、正しい表現で書くことができる

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
世界史B	4 時間

目 標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。	
	知識 技能	世界史の諸事象についての基本的知識を理解する。またそれぞれの事象を関連付けて考察する技能を身に付ける。
	思考 判断 表現	世界史の諸事象から課題を見出し、それを多角的に考察する。
	主体性 協働性 多様性	世界史を通して国際社会の諸事象に対する関心や課題意識を高め、それを意欲的に考察するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚を持ち責任を果たそうとする。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	第1章 オリентと地中海世界 第2章 アジア・アメリカの古代文明 第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成 第4章 イスラーム世界の形成と発展 第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開 第7章 アジア諸地域の繁栄 第8章 近世ヨーロッパ世界の形成	人類が自然環境に適応しながら各地域で特色ある文明を築き、やがてそれらをもとに、より大きな地域世界を形成したことを理解する。
2 学 期	第9章 近世ヨーロッパ世界の展開 第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 第11章 欧米における近代国民国家の発展 第12章 アジア諸地域の動揺 第13章 帝国主義とアジアの民族運動 第14章 二つの世界大戦 第15章 冷戦と第三世界の成立 第16章 現代の世界	アジア諸地域の繁栄とヨーロッパ世界の拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層発展したこととともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパ諸国の進出により、世界の構造化が進み、社会の変革が促されたことを理解する。

授業の形態	一斉授業 グループ学習
教科書	『高校世界史B』(山川出版社)
副教材	新世界史要点ノート[標準編](啓隆社) アカデミア世界史(浜島書店)
評価の方法	定期試験と平常点(復習テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価
備考	調べ学習を随時取り入れる

到達 目 標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	単元毎の振り返りを確実にを行い、各テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な教材を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	教科書の重要語句の関連性を系統立てて理解できる
	60%	教科書の重要語句を理解できる

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
日本史B	4 時間

目 標	我が国の歴史の展開を世界史的視野に立って総合的に考察し、我が国の文化と伝統の特色について認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。	
育 っ て たい 力	知識 技能	我が国の歴史の展開についての基本的な事項を、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境と関連付けて理解する。
	思考 判断 表現	我が国の歴史の展開から課題を見つけ多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。
	主体性 協働性 多様性	我が国の歴史の展開に対する関心を高め、主体的に探究することを通して、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	7章 大日本帝国の形成 8章 大日本帝国の展開 9章 15年戦争と日本・アジア 10章 戦後改革と高度経済成長 11章 現代の世界と日本	<ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府の滅亡や維新期の近代化について、諸改革の内容を理解するとともに、立憲体制の確立に努めた国内外の情勢にも着目し、二度の世界大戦へと進む状況を理解する。 戦後占領期の民主化政策と独立回復の動きを考え、独立後、経済・文化国家としての道を歩み、1960年代に高度経済成長を達成する日本の復興を世界的な視野から理解する。
2 学 期	1章 文化と国家の形成 2章 古代国家の確立 3章 中世社会の成立 4章 中世社会の展開 5章 統一政権の成立 6章 幕藩体制の展開	<ul style="list-style-type: none"> 農耕の発達と、それによって生まれた弥生社会の歴史的意義を、縄文文化と対比しながら理解する。 中央集権体制の構築が進められ、古代国家が現出して天平文化が開花する過程を理解する。 律令体制が動揺し、政治面では摂関政治、文化面では国風文化が開花するなど、古代から中世への過渡期を捉える。 鎌倉幕府成立から執権政治の確立を経て、得宗専制化にいたる過程を理解する。 南北朝動乱期に守護が成長し、応仁の乱を契機に下克上の風潮のもと戦国時代へと移行する過程を理解する。 徳川氏が幕藩体制を固め、対外的にも鎖国体制を完成させることで、近世社会が成立し、展開していった様子を理解する。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習 ICTを活用した学習
教科書	『高校日本史B 新訂版』(実教出版)
副教材	なし
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を理解した上で、応用問題や発展問題も解答する
	②小テスト	演習を確実に行って小テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な教材を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	時期の特色, 教科書の語句, 事項の因果関係, 史資料の完全理解
	60%	時期の特色, 教科書の語句, 事項の因果関係, 史資料の理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
地理B	4 時間

目 標	系統的内容を学ぶことにより、世界の様々な地域の特色や共通点を結びつけて理解する。	
	知識 技能	現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄やその追究の方法を理解し、地理的事象を追究する技能を身につける。
	思考 判断 表現	現代世界の地理的事象から課題を見出し、地域性を踏まえて多角的・多面的に考察するとともに、国際社会の変化について考察する。
	主体性 協働性 多様性	世界の様々な地域の特徴を学び、現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究する。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察 1章 自然環境 2章 資源と産業 第Ⅰ部 さまざまな地図と地理的技能 1章 地理情報と地図 2章 地図の活用と地域調査	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の気候、世界の大地形の分布、火山・地震などの活動地域の特徴、海岸地形、地域開発のあり方や環境問題について、世界地図を見ながら整理する。 ・エネルギー・原料資源を生産量・消費量などから各国ごとに比較し、類似性に気づく。また、日本の状況をそこから考える。 ・産業革命による社会変革が、現代先進工業国の原点であることと、工業の発達要素について理解する。 ・今後の技術発展によって、より高度な情報を地図上で表現する方法と、有効な活用方法について考察する。
2 学 期	第Ⅱ部 現代世界の系統地理的考察 3章 人口、村落・都市 4章 生活文化、民族・宗教 第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察 1章 現代世界の地域区分 2章 現代世界の諸地域 3章 現代世界と日本	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の村落・都市の成立要因・分類を学ぶ。 ・東アジアの地誌を学び、日本との密接な関係をもとに世界とのつながりを考察する。 ・ヨーロッパの地誌を学び、EUの拡大・発展が周辺地域に与える影響を考察する。 ・北アメリカの地誌を学び、世界に大きな影響を与える農牧業・工業の分布や成立背景について学び、多角的に考察する。 ・環境問題とエネルギー問題の間には関連の深い問題も多く、解決には国際協力が必要で緊急性もあることを理解する。 ・世界的視野・地域的視野から種々の民族・領土問題があることを学び、背景・現状の共通性と相違性について理解する。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ICTを活用した学習
教科書	『新詳地理B』(帝国書院) 『地歴高等地図』(帝国書院)
副教材	最新地理図表 GEO(第一学習社) 新 地理要点ノート(啓隆社)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価
備考	調べ学習を取り入れる

到達 目 標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	教科書の語句、事象の因果関係、資料等の理解を説明できる
	60%	授業内で行われる小テスト得点率100%

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
倫理	2 時間

目 標	青年期における自己形成と人間としてのあり方, 生き方について理解と思索を深めるとともに, 現代社会に対する興味・関心を高める。	
	知識 技能	青年期の意義と課題, 人生における哲学, 宗教, 芸術, また現代に生きる人間の倫理的諸課題などに関する基本的な課題を理解することができる。
	思考 判断 表現	現代社会における倫理的な諸課題に関する基本的な事柄を, 自己の課題とつなげて探究する活動を通じて, 論理的に考察することができる。
	主体性 協働性 多様性	さまざまな資料を収集・整理することで, 情報を主体的に選択し, 適切に活用することができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	第1章 青年期の課題と自己形成 第2章 人間としての自覚	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の定義や, 人生における青年期の位置とその課題について理解し, どのように青年期としての現在を過ごすかについて考察する。 ・より豊かな自己実現のためには, 生きることについての主体的な思索が必要であることを理解し, 源流思想の先哲たちの生き方・考え方を手がかりに, 人生の価値追求への関心を高める。 ・イエスの言行や聖書の教えを通して, キリスト教の基本的な内容を理解する。 ・ムハンマドの言行を通して, イスラームの基本的な内容を理解する。 ・ブッダの言行を通して, 仏教の基本的な内容を理解する。
2 学期	第3章 国際社会に生きる日本人の自覚 第4章 現代を生きる人間の倫理 第5章 現代の課題を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・古代日本人の考え方や生き方, 風土との関連や言葉の使い方などをもとに, 日本人の人間観・自然観に関する基本的な内容, 日本人の伝統的な倫理観について理解する。 ・近代的な学問, 真理探求の方法がいかに確立されたかを理解させ, 理性中心の考え方に対する疑問や科学技術の発達が新たな倫理的課題を出現させていることなどを考察する。 ・生命倫理や環境倫理, 情報社会などの現代社会の課題について考察する。

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	『倫理』(数研出版)
副教材	倫理資料集(清水書院), 倫理演習ノート(数研出版)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価
備考	ICTの活用, アクティブラーニングを取り入れる

到達 目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で, 応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え, 中間の学習に貢献し, 仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	『サポートノート倫理』 演習問題・発展問題の完全理解
	60%	『サポートノート倫理』 確認問題の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
数学Ⅱ	2 時間

目 標	式と証明, 図形と方程式, 三角関数について理解し, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し表現する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。	
	知識技能	数学的活動を通して, 式と証明, 図形と方程式, 三角関数における基本的な概念, 原理・法則, 用語・記号などを理解し, 基礎的な知識を身につけている。事象を数学的に考察し, 処理する仕方や推論の技能を身につける。
	思考判断表現	数学的活動を通して, 式と証明, 図形と方程式, 三角関数における数学的な見方や考え方を身につけ, 事象を数学的に捉え表現できる。
	主体性協働性多様性	自ら課題を見だし, 解決するための構想を立て, 考察・処理し, その過程を振り返って得られた結果の意義を考えることができる。自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにし, ICTを活用し, 説明したり, 議論したりすることができる。学習した内容を生活と関連付け, 具体的な事象の考察に活用することができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	○方程式と証明 ○図形と方程式	○整式の乗法, 除法及び分数式の計算ができる。 ○複素数について理解し, 2次方程式を複素数の範囲で解くことができる。因数定理を使って高次方程式を解くことができる。 ○恒等式について理解し, その等式や不等式の証明ができる。 ○座標を用いてさまざまな図形を性質を考察できる。 ○軌跡や領域について理解し, 応用できる。
2 学期	○三角関数	○角の概念を一般角まで拡張し, 弧度法を導入する。単位円を利用して, 三角関数の基本的な性質の理解を深め, 三角関数のグラフを理解し, 方程式・不等式が解ける。 ○三角関数の加法定理について理解し, 活用できる。

授業の形態	一斉授業, グループ学習
教科書	『数学Ⅱ Standard』(東書 数Ⅱ318)
副教材	改訂版 リンク数学演習Ⅰ・A+Ⅱ・B受験編 approach(数研)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト・課題の提出物・授業態度等)による総合評価
備考	章ごとに問題演習の時間をとり, 応用力を身につける

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で, 応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え, 仲間の学習に貢献し, 仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書のTrainingの完全理解
	60%	教科書の例題・問の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
数学B	2 時間

目標	数列, 確率分布と統計的な推測について理解し, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察し表現する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。	
	知識技能	数学的活動を通して, 数列, 確率分布と統計的な推測における基本的な概念, 原理・法則, 用語・記号などを理解し, 基礎的な知識を身につけている。事象を数学的に考察し, 処理する仕方や推論の技能を身につける。
	思考判断表現	数学的活動を通して, 数列, 確率分布と統計的な推測における数学的な見方や考え方を身につけ, 事象を数学的に捉え表現できる。
	主体性協働性多様性	自ら課題を見だし, 解決するための構想を立て, 考察・処理し, その過程を振り返って得られた結果の意義を考えることができる。自らの考えを数学的に表現し根拠を明らかにし, ICTを活用し, 説明したり, 議論したりすることができる。学習した内容を生活と関連付け, 具体的な事象の考察に活用することができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	○数列	○数列の概念および数列についての基本的な用語の意味を理解する。 ○記号 Σ の意味と性質を理解し, 累乗の和を Σ を用いて表すことができる。 ○階差数列から一般項を求めたり, 数列の和から一般項を求めたりすることができる。 ○帰納的定義について理解し, 漸化式を扱うことができる。数学的帰納法を利用して, 等式などの証明ができる。
2 学期	○確率分布と統計的な推測	○確率分布について理解を深め, 統計的な処理ができるようになる。PCを活用して統計処理ができる。

授業の形態	一斉授業, グループ学習
教科書	『数学B Standard』(東書 数B317)
副教材	改訂版 リンク数学演習 I・A+II・B受験編 approach(数研)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価
備考	章ごとに問題演習の時間をとり, 応用力を身につける

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で, 応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え, 仲間の学習に貢献し, 仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書のTrainingの完全理解
	60%	教科書の例題・問の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科目	週時数
化学基礎	2 時間

目標	化学は物質について学習する教科であることを理解し、化学的な事物・現象に関する基本的な原理・法則を理解するとともに、身の回りの事物・現象を化学的に探究する方法を身につける。	
	知識技能	基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を身につけることができる。化学現象について、学習した知識を基に、定量的かつ定性的に扱うことができる。
	思考判断表現	実験結果のデータや表を基にして、化学現象を客観的にとらえることができる。化学現象について、原子・分子レベルで考え、他者にわかりやすく説明できる。
	主体性協働性多様性	目的意識をもって観察、実験を行ない、化学的に探究する能力と態度を身につけることができる。主体的に課題に取り組むことにより、興味・関心を高めることができる。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 原子の構造と元素の周期表 化学結合 物質質量と化学反応式 	<ul style="list-style-type: none"> 化学結合のしくみと性質について深く学び、物質の成り立ちを理解する。 原子、分子などの個数をひとまとめとして扱う方法、および、化学反応における量的関係について理解する。 物質質量の計算を身につけ、化学反応式から物質の過不足や生成する物質の量を求められるようにする。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 酸と塩基 中和反応 酸化還元反応 	<ul style="list-style-type: none"> 酸、塩基の定義について、歴史的な背景を考慮しながら理解し、酸、塩基が私たちの日常生活と深く関わっていることを理解する。 中和滴定の実験を通して、正確な数値を測ることの重要性を理解する。また、器具の使い方を正確に理解する。 身のまわりで起こる多くの反応は、電子のやり取りが重要な役割を果たし、それが酸化還元反応であることを理解する。

授業の形態	一斉授業
教科書	『新編化学基礎』(数研出版)
副教材	リードα 化学基礎(数研出版)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト、提出物、授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	「リードα 化学基礎」の基本問題の完全理解
	60%	「リードα 化学基礎」の基本例題の完全理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
地学基礎	2 時間

目 標	地学的な事物・現象についての観察, 実験等を行い, 自然に対する関心や探究心を高め, 地学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し, 科学的な自然観を養う。	
育 っ て たい 力	知識 技能	火山や地震, 気象などの自然現象を正確に理解するとともに, 防災への知識など, 自然を守り, 共存していくために基礎を学ぶ。
	思考 判断 表現	実験や探究活動を通じ, 物事を考察していく上で必要な手順や方法を学び, 適切に表現できる能力を養う。
	主体性 協働性 多様性	グループ学習などを通じて, 主体的に学ぶ姿勢を養い, 協働作業の重要性について理解する。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学 期	1. 固体地球とその変動 2. 移り変わる地球	1. 活動する地球に関する探究活動を行い, その学習内容の理解を深めるとともに, 地学的に探究する能力を高める。 プレートの分布と運動及びプレート運動に伴う大地形の形成について理解する。 火山活動と地震の発生のしくみについて理解する。 2. 地球の地質調査によって得られた様々な地層の情報から, 地球の歴史が解明されていった過程を理解し, 地球誕生から現在に至る地質時代の出来事を学ぶ。
2 学 期	3. 大気と海洋 4. 宇宙の構成 5. 自然との共生	3. 大気中で起こる様々な現象を地球規模の視点で学び, 合わせて海洋との相互作用で地球環境が保たれていることを理解する。 4. 宇宙の誕生と地球の形成について観察, 実習などを通して探究し, 宇宙と惑星としての地球の特徴を理解する。 5. 地球環境の変化を科学的に考察する。 日本の自然環境を理解し, その恩恵や災害など自然環境と人間生活とのかかわりについて考察する。

授業の形態	一斉授業, 実験, 観察, グループ学習
教科書	『地学基礎』(啓林館)
副教材	セミナー地学基礎(第一学習社)
評価の方法	定期試験と平常点(小テスト, 提出物, 授業態度等)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で, 応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え, 中間の学習に貢献し, 仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	「セミナー地学基礎」の基本問題と発展問題の理解
	60%	「セミナー地学基礎」の基本問題の理解

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
体育	2 時間

目 標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動の技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。	
	知識技能	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基本的な事項を理解し、知識を身につける。また、自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の技能を高める。
	思考判断表現	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫する。
	主体性協働性多様性	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身につけるとともに、健康・安全に留意して自ら計画的に運動をしようとする。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	体づくり運動 *組体操、運動会の練習 体育理論 陸上(ハードル) バレーボール ソフトボール	<ul style="list-style-type: none"> •運動を通して自分や仲間のからだや心の状態に気づき、からだの調子を整えたり、仲間と楽しく交流する。 •ハードル走ではスピードを維持した走りからハードルを低くリズムカルに越すことができる。 •ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 •ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作、連携した守備などによって攻防を展開する。 •安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。
2 学期	体育理論 バスケットボール サッカー 卓球 バドミントン	<ul style="list-style-type: none"> •運動技術と運動技能の違いを知り、それぞれの運動種目に応じた運動技術について理解する。 •ネット型では役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。 •ゴール型では状況に応じたボール操作と空間を埋める動きによって空間への侵入などから攻防を展開する。 •安全に練習ができるようにするとともに、計画的な練習や競技会の企画・運営ができるようにする。

授業の形態	一斉授業 グループ学習
教科書	『高等学校保健体育』(第一学習社)
副教材	ステップアップ高校スポーツ2021(大修館)
評価の方法	実技試験と定期試験(種目の歴史とルール)による総合評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	実技では規定の技能を正確に行う。筆記試験はルールや歴史を理解する。
	②実技テスト	競技の特性を理解し、指示されたポイントを踏まえて取り組み満点を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	規定の服装で授業を受けること
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科 目	週 時 数
保健	1 時間

目 標	心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践できるような意欲を育てる。 現代社会と健康についての課題解決に役立つ知識を身につけ、適切な意思決定と行動選択できる力を育て健康的なライフスタイルを身につける。	
	知識 技能	個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身につける。
	思考 判断 表現	個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断する力を育てる。
	主体性 協働性 多様性	個人生活や社会生活における健康・安全に関心を持ち、生涯にわたって自らの健康を適切に管理する方法などについて意欲的に取り組む。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	第2章【生涯を通じる健康】 第1節 生涯の各段階における健康 第2節 保健・医療の制度と機関	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたって健康を保持・増進するために、人生の各段階における健康の危険因子について理解する。 ・思春期の健康課題、性行動について理解を深める。 ・結婚の意義と家庭の機能、新しい生命の誕生について理解を深める。 ・保健行政の施策・保険活動、医療制度の仕組みやサービス、医薬品を安全に使用するための知識について理解する。
2 学期	2章【生涯を通じる健康】 第1節 環境と健康 第2節 環境と食品の健康 第3節 労働と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちが取り巻く環境についての歴史、近年の人間活動による汚染の急増、地球環境問題などについて理解し、解決に向けた対策について理解する。 ・労働と健康の関わりについて理解を深める。 ・食品による健康被害の種類、被害を防止するために行われている施策について理解する。 ・労働者の健康・安全をまもるために、わが国で行われている施策について知るとともに、自らが取るべき対策についても理解する。

授業の形態	一斉授業 グループ学習
教科書	『高等学校保健体育』(第一学習社)
副教材	保健体育ノート(第一学習社)
評価の方法	定期試験と平常点(課題の内容・提出状況、授業態度)による総合評価
備考	特になし

到達 目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科 目	週 時 数
コミュニケーション英語Ⅱ	4 時間

目 標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。						
育 っ て たい 力	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;">知識 技能</td> <td>簡単な物語や説明文を理解したり、図や表から情報を得ることができる。 英文について、大まかな流れ・内容の重要な点を理解できる。 ゆっくり話されれば、日常生活の話題や説明・指示を理解することができる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">思考 判断 表現</td> <td>自分のこと、興味・関心のあることについて簡単な文章を書くことができる。 自分の意見や感想などある程度まとまった内容を、辞書を引きながら書くことができる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">主体性 協働性 多様性</td> <td>自分のことや興味・関心のあることについて自分の考えを述べることができる。 なじみのある話題について考えを英語で述べるすることができる。 英語で述べた考えについての簡単な質問にも英語で答えることができる。</td> </tr> </table>	知識 技能	簡単な物語や説明文を理解したり、図や表から情報を得ることができる。 英文について、大まかな流れ・内容の重要な点を理解できる。 ゆっくり話されれば、日常生活の話題や説明・指示を理解することができる。	思考 判断 表現	自分のこと、興味・関心のあることについて簡単な文章を書くことができる。 自分の意見や感想などある程度まとまった内容を、辞書を引きながら書くことができる。	主体性 協働性 多様性	自分のことや興味・関心のあることについて自分の考えを述べることができる。 なじみのある話題について考えを英語で述べるすることができる。 英語で述べた考えについての簡単な質問にも英語で答えることができる。
	知識 技能	簡単な物語や説明文を理解したり、図や表から情報を得ることができる。 英文について、大まかな流れ・内容の重要な点を理解できる。 ゆっくり話されれば、日常生活の話題や説明・指示を理解することができる。					
	思考 判断 表現	自分のこと、興味・関心のあることについて簡単な文章を書くことができる。 自分の意見や感想などある程度まとまった内容を、辞書を引きながら書くことができる。					
主体性 協働性 多様性	自分のことや興味・関心のあることについて自分の考えを述べることができる。 なじみのある話題について考えを英語で述べるすることができる。 英語で述べた考えについての簡単な質問にも英語で答えることができる。						

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> •I'm the Strongest! •Tokyo's Seven-minute Miracle •Saint Bernard Dogs •Chanel's Style •Science of Love 	以下の事項を理解し、活用できるようになる。 ・if [whether]を使う間接疑問文 ・形式目的語のit①, ② ・現在完了進行形 現在完了の受動態 S+V+分詞 ・S+V+O+分詞 関係代名詞の非限定用法 関係副詞why 関係副詞の非限定用法 ・do you thinkを含むwh-疑問文 be動詞の補語になるthat節 所有を表す関係代名詞whose 同格のthat節
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> •Gaudi and His Messenger •Letters from a Battlefield •Edo: A Sustainable Society •AI and Our Future •Bhutan: A Happy Country 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去分詞の分詞構文 S+V[知覚動詞]+O+過去分詞 付帯状況を表すwith ・複合関係詞 対比を表すwhile 動名詞の意味上の主語 完了形の分詞構文 ・前置詞+関係代名詞 使役動詞+O+過去分詞 助動詞+have+過去分詞 完了形の不定詞 ・仮定法過去完了 進行形の受動態 as ifを使った仮定法 ・強調構文 部分否定 ifを使わない仮定法 前文の内容を受ける関係代名詞which

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	『Landmark Fit English Communication II』(啓林館)
副教材	Landmark Fit English Communication II 予習ノート(啓林館) システム英単語5訂版(駿台文庫) Vision Quest総合英語(啓林館)
評価の方法	定期試験・実技試験・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野 の到達目安	80%	予習ノートの全ページの問題と答え、教科書の課末問題や小テスト問題を全て理解している
	60%	予習ノートの全ページの問題と答えを理解している

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
英語表現Ⅱ	2 時間

目 標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。	
育 っ て たい 力	知識 技能	いろいろなトピックについて、内容を理解することができる。 学習した文法を理解し、知識として定着させている。 つながりの言葉を使って文章を書くことができる。 パラグラフの構成に基づいて文章を書くことができる。
	思考 判断 表現	与えられた状況において、適切に話し、伝えることができる。 適切な発声で、プレゼンテーションを行うことができる。 自らの意見を、適切な表現を用いて伝えることができる。 発表者や発言者の言ったことを、正しく聞き取れる。
	主体性 協働性 多様性	モデル会話に関心を持ち、聞き、発話しようとしている。 間違いを恐れず、積極的に表現しようとしている。 積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	Part 1 ・L1伝統行事がいくつもあるのね。 ・L2職業体験はどうだった？ ・L3話したいことがあるんだ。 ・L4航空管制官として働きたいんだ。 ・L5そんな経験をもう一度したいわ。 ・L6これはカナダのバンクーバーで撮った写真なんだ。 ・L7携帯電話は私たちの生活になくてはならないもの？ ・L8犬と猫どっちが好き？	以下の事項を確実に理解し、自己表現ができるようになる。 ・文の種類 ・使役動詞／知覚動詞 ・仮定法／完了形 ・助動詞／修飾／関係副詞 ・副詞句・節／比較
2 学期	Part 2 ・L1ロボットの有用性 ・L2英語を学ぶ意義 ・L3都会と田舎 ・L4若者の本離れ ・L5ベジタリアン	以下の事項を確実に理解し、自己表現ができるようになる。 ・パラグラフの構成／列挙・順序 ・例示・追加／比較・対照 ・原因・理由・結果／要点・要約

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習
教科書	『Vision Quest English Expression II hope』(啓林館)
副教材	Vision Quest English Expression II hope WORKBOOK (啓林館) Vision Quest総合英語2nd Edition (啓林館) スランブル英文法 4th Edition(旺文社)
評価の方法	定期試験・実技試験・小テスト・提出物の他、授業への意欲・姿勢を総合的に評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

知識・技能分野の到達目安	80%	教科書のExercises・WORKBOOKのPractice問題の完全理解
	60%	教科書のExercises問題をすべて解くことができる

※80%=80点を取るための目安。

科 目	週 時 数
聖書(設定)	1 時間

目 標	人類の遺産である聖書の基本的知識及び価値観を学び、グローバル社会で公共の精神に生きる力を育てる。	
	知識 技能	歴史的、社会的背景を踏まえて本文を正しく理解する。 2000年の歴史を経ての今日的意義を探究する。
	思考 判断 表現	自分も含めた様々な人々から社会が形成されていることを知り、いかに共生するかを考える。 神の前で人間は有限であるが、同時に有意味である自己肯定感を促す。
	主体性 協働性 多様性	異なった考えを積極的に捉え、これまでの自分の価値観と対比し生きる糧とする。 仲間と聖書を読み合うことで、全体の共同性を確認する。

時期	学習内容	ねらい・目標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教史を学ぶ意味 ・キリスト教の源 ・時のみちるにおよんで ・信仰の戦い 	<ul style="list-style-type: none"> ・聖書を学ぶ、必要性を知る。 ・伝統の中に多くの人々の犠牲と奉仕があることを知る。 ・3校祖と3L精神を学び、学院生としての自覚を促す。 ・教会の礼拝と、学校の礼拝の違いを知る。 ・イエス・キリストの生涯と、新約聖書の概観を知る。 ・無意識で取り組んでいた日本の「宗教」を理解する。 ・本来あるべき、神との関係性について知る。 ・本来あるべき、隣人との関係性について知る。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・教会の基礎づくり ・世俗の権力と結ばれた教会 ・新しい時代の準備 ・皇帝の上に立つ教皇 ・聖地に向かう十字軍の騎士 	<ul style="list-style-type: none"> ・聖典と信条の成立。 ・公会議開催による成立過程。 ・修道院の設立。 ・教会と国家との関係。 ・権力集中の中での聖地奪還。

授業の形態	一斉授業
主たる教材	聖書
副教材	なし
評価の方法	定期試験, 提出物, 小テストによる総合評価
備考	特になし

到達 目標	①定期試験	範囲内の学習内容を完全に理解した上で、応用問題や発展問題も完全解答する
	②小テスト	演習を確実に行って全テストの得点率100%を目指す
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	聞く姿勢を整え、仲間の学習に貢献し、仲間とともに授業を作る意識を持って毎時間の授業に臨む

科 目	週 時 数
3L希望学	1 時間

目 標	ESDとキャリア学習を通して、主体的、創造的、協働的に課題に取り組む力を育み、加えて未来を展望して、自らの使命を考える。	
育 っ て たい 力	知識 技能	世界にある様々な課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことにより、それらの解決につながる新たな価値観、行動を生み出すこと、それによって持続可能な社会の創り手となることができるように教科学習や探究活動を通して得た知識を組み合わせることができる力を養う。
	思考 判断 表現	クラスやグループごとに仮説を立案し、その検証のために調査し、討議し、まとめ、発表し、行動する学習活動を通して、探究する力を養う。
	主体性 協働性 多様性	誰も置き去りにしない社会を作るためには、何が必要か、どうしたらよいか、自分に何ができるかを級友たちと協働的・探究的に学ぶことを通して、社会の中での自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現していく力を養う。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学 期	「課題研究」 「進路研究」	副教材を用いて、まち・社会をつくるリアルな課題解決を題材に、未来について探究しながら、探究のスキルを身につける。 オープンキャンパスへの参加や外部講師の方の講演会への参加、講義動画の視聴等を通して、自らの興味関心や向き合いたい社会課題と関連付けて学びたい学問や学べる大学についての理解を深める。
2 学 期	「課題研究」 「平和学習」 「進路研究」	個人の興味関心に応じて課題を設定し、課題探究を進め、プレゼンテーションにまとめ発表する。 研修旅行の事前学習などを通して、過去の大戦の状況や背景についての理解を深め、「平和と公正をすべての人に」もたらすために自分たちに何ができるかについて級友たちと協働して考える。 社会と求められる役割の大きな変化の中で、世界規模で横たわる課題にどのように向き合い、その解決のためにどのように役割を果たすかを踏まえて取り組む学問と学べる大学とを定め、その考えを志望理由書に表現する。

授業の形態	一斉授業 講演 グループ学習 ワークショップ 個人の探究活動
教科書	なし
副教材	「100年を創造するチカラ」(鹿島建設)
評価の方法	学習記録、報告・作品(レポート、発表など)の内容や提出状況、ルーブリックによる自己評価・相互評価
備考	特になし

到達目標	①定期試験	なし
	②小テスト	なし
	③提出物	期限を守って指示された内容の成果物を提出する
	④準備	必要な物品を確実に準備する
	⑤学習態度	自分の興味関心と社会のあり方の関係について考え続ける態度を理想とする

科 目	週 時 数
プレカレッジ	2 時間

目 標	東北学院大学で開講されている「地域の課題」の学びに繋がる「思考プロセス」を具体的なワークを通して身につける。加えて、地域の課題と向き合うことを通して社会の未来を描く力を育み、自らが社会課題の課題の解決のために何ができるかについて考え、行動する。	
育 っ て たい 力	知識 技能	自分自身の興味関心と社会の課題の結びつきを明確に理解することができる。 社会への関心と情報感度を向上させることができる。
	思考 判断 表現	論理的な証拠に基づいて主張を構成することができる。 仮説を立て、手続きに従ってそれを検証することができる。
	主体性 協働性 多様性	自分ごととして課題を設定し、その解決策を考えることができる。 課題解決のために他者の意見を積極的に活用し、自らの考えを深めることができる。 異なる立場や考え方に十分に配慮し、自らの考えを深めたり行動したりすることができる。

時期	学 習 内 容	ね ら い ・ 目 標
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 東北学院大学「地域の課題」について ボランティア活動について 	<ul style="list-style-type: none"> 「地域の課題」の履修のねらいや内容についての理解を通して、東北学院大学での学びに必要な思考過程を理解する 新聞記事の読み下しと紹介を通して、自分が興味関心を持つ分野を見つけ言語化する 他者の興味関心のポイントを理解し多様性を受容する 興味関心領域を深掘りするための思考の基礎を学ぶ 疑問、仮説、検証の流れを具体的な記事の深掘りを通して体験的に学ぶ ボランティア活動についての理解を通して地域の課題について知る ボランティア活動を通して課題解決の方法について理解を深める
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 「locus」への参加 	<ul style="list-style-type: none"> 問いの立て方を知る 課題を特定する視野を得る 課題解決方法を知る 教科の学びの活用方法を知る 理想の地域の実現案について考える 地域と自分の両者の未来を描く 情報収集方法と整え方について知る 情報を表現する方法について知る 地域のさまざまなステイクホルダーに課題解決のプランを発表する フィードバックの活用方法について理解する

授業の形態	一斉授業 グループ学習 ペア学習 フィールドスタディー
主たる教材	自主教材 「locus」ワークシート
副教材	動画 新聞
評価の方法	レポート ミニツツペーパー ポートフォリオ
備考	ボランティアに関する情報を発信し体験のサポートをする

到達目標	①定期試験	実施しない
	②小テスト	ミニツツペーパーを充てる
	③提出物	レポート ミニツツペーパー ポートフォリオ
	④準備	新聞に目を通すなどして地域の状況を知ろうとする
	⑤学習態度	社会ならびに地域の課題に自分の興味関心に沿ってしっかりと向き合う